

勝林寺々報

弥陀仏本願念仏（南無阿弥陀仏のみおしえは）
 邪見憍慢悪衆生（おごりたかぶりよこしまの）
 信樂受持甚以難（はかるう身に信ぜんに）
 難中之難無過（難きなかにもなお難し）

まず、「邪見憍慢悪衆生」ということばが気になる
 います。いつたい、どんな人のことをこう言っているの
 でしょうか。

「邪見」というのは、字引をひいてみると「よこしまな見解」「間違つた思想」とあります。仏教の辞典には「因果の道理を無視した見解」などといつてあります。とにかく道理に合わない得手勝手な考えかたをいうのでしよう。

次に「憍慢」の「憍」は、「われひとりよし」とするおごりの心、「慢」は「われひとり高し」とするうぬぼれの心です。うぬぼれ高ぶつて人を見さげる心であり、自分とらわれる心です。そんな心をもつて生きている人を「悪衆生」とよんでいるのです。

なるほど、得手勝手な理屈をふりまわす一人よがりな高慢なやつがいるとすれば、そんな人は「悪衆生」「悪人」とのしつてやつてものしり足りないくらいでしょう。

しかし、自分のまわりを見まわして、いろいろそんな悪衆生がごころうようよいあるなあなどと思つている間は、それも気になることばではないかも知れません。

私はどうなのかと考へてみたとき、ぞつとすると
 ような思ひがいたします。

あのほとけの神を懸念に祈るその私の信仰心をあてにしてご利益をせしめようとすることを宗教だと思つてはいませんか。

懸念になる、一心になる、信仰するなどといつていますが、「間違つちやいけないよ」と言つて

あげなければなりません。私たちの懸念・一心な信仰など、一体いかほどのものでしょう。利益をせしめる条件にならないばかりか、全くそれは自分勝手な利己的な信仰ではありませんか。地獄行のたねにはなつてもおすくいなたねにはなりません。

そのな私でしかないのに、あたかも信じているつもりになつたり、聞いたつもりになつたり、ねばれてはいませんか。

私が聞いてまいらせてもらうのだ、私が信じてすくつてもらうのだ、私の聞法や私の信心だけをあてにしている者が「邪見憍慢の悪衆生」なのです。

自分の腹の中に作りあげる信心だけに目をむけて、実はそのような私をこそ撰取してくださる如来さまの本願を仰がない人は実に多いのだと親戚さまはなげかれます。

自分を信じて如来様を疑う人です。

人ごとではありませぬ。
 親の願いのなかにあるのちとも気づかず、小さな我執のからの中で、これが宗教これが念仏これが信心と、得手勝手にうぬぼれたかぶる私には、とてもととも親の心がわかるうはずはありません。

親心に気づかせ、親のいのちに生きかえらすことほど難中の難です。これほどの難事はありません。

その難しいことが、いま、私のうえに成就されようとしているのです。

「そのままたい」のよび声「南無阿弥陀仏」が聞こえてくださつていられるのです。

これが私のいうところから手をはなして、もしそれで落ちて行くなら落ちて行くまますを如來さまの本願におまかせするよりありません

聞いたが仏法ではない
 仰せが仏法

永代経 ご案内

「永代経」という毎年一度のご法要は、わたしたちを、お念仏の世界へ導き育ててくださった、いまは亡き父母ご祖先のご恩をしのび、あらためて開法させていたゞくためのご法要です。

祖先のはぐくみ、如来さまの恵みを忘れがちに過ごしている私であるだけに、「永代経」にはせめて、心をかたむけて聴聞させていたゞきたいものです。

ことに、今年には竜谷大学文学部長の信楽（しがらき）先生にご講話をいたゞきます。得がたいご縁です。さそいあつて是非おまいりください。

七月八日 夜 二時より
 七月九日 昼 二時より

ご法話
 竜谷大学文学部長（真宗学）
 信楽 峻一 磨 教授

親を
 忘れがちな私に
 いつも
 親はあつた

葬儀

六月十六日

矢根

永井 わき 様

七月のこよみ

- 一日 小田「連研」
- 三日 出石組仏法連盟総会（福成寺）。仏法清掃奉仕作業。鳥取市深相寺永代経説教
- 四日 鳥取深相寺説教
- 五日 鳥取真宗寺永代経説教
- 六日 同
- 八日 勝林寺永代経
- 九日 勝林寺仏法総会（午前）。永代経（午後）正福寺永代経
- 十日 中島明美氏宅法事。正福寺永代経。十六夜会
- 十一日 中央連研講師研修会（本山）
- 十二日 永井勝正氏宅法事
- 十七日 夢前町光瑞寺仏法研修会講師。兵庫教区「連研」修了者大会（本山）
- 十七日～三十日 「安居（アング）」（本山）
- 二十七日・八日 寺族婦人総参拜（本山）
- 三十日 田中清隆氏宅法事
- 三十一日 「連研」（平田町福寺）

仏法婦旅行団より御礼

六月二十五・六日、今年は大坂津村別院参拝を中心にした仏法婦合同研修旅行を有意義に終らせていたゞきました。会員あるいはご門徒のご支援にあつたため御礼申し上げます。いたゞきましたご芳志ありがとうございました。

金巻封

勝林寺様。亀井幸男様。永井貞雄様。兼井正規様。勝林寺仏法様。宮島美重子様。森井実様。亀井孝様。谷垣逸雄様。大石正和様

清酒

田中保夫様。永井貞雄様。亀井孝様。平野隆様。坂本滋様。永井勉様。衣川喜一様



小さなドーナツ

青少年の荒れと非行がたいへんな勢いで全国に広がっています。これにはいろいろな原因があると思われ、わたしたちお念仏にあわせていたゞいて、者として、ぜひ考えてみなければならぬことがあるように思います。

わたしたち国民のこゝろのなかから、「見ていてくださる」「聞いていてくださる」「なにかも知っていてくださる」という思いが、急速に消え去ろうとしているのではありますまいか。三年生の男の子の作文が思い出されます。

※

ママがおふろに入つたとき、いつもスカートがぬぎすてられている。下へずらしたまゝにしているから、ふろばの入口で大きなドーナツのようになっている。パパがみつめて「だらしない」といつてよくおこる。

しかしママのくせはなかなかなおらない。ママは太つて、おなかまでぼつてきたから、うつむくのがめんどくさいのかも知れない。でも、どうせあとでかたづけなければならぬのだから、そのときにしとけばよいのと思ふ。

パパが「ママがわるい手本をしめすから、ねえさんまで同じようにする」といつておこる。そういえば、おねえさんの入つたあとにも小さなドーナツができています。

※

それにしても、このお母さんがつくつていらつしやる「大きなドーナツ」が、いつの間にか

ちやんと「おねえさん」の「小さなドーナツ」になつて現われているというところは、恐ろしいことではないでしょうか。子供の問題は、そのまま、わたしたちおとなの問題だということを教えらるる思いがします。

今日の青少年問題も、光にそむいて生きているわたしたちの生きざまの問題ではないでしょうか。

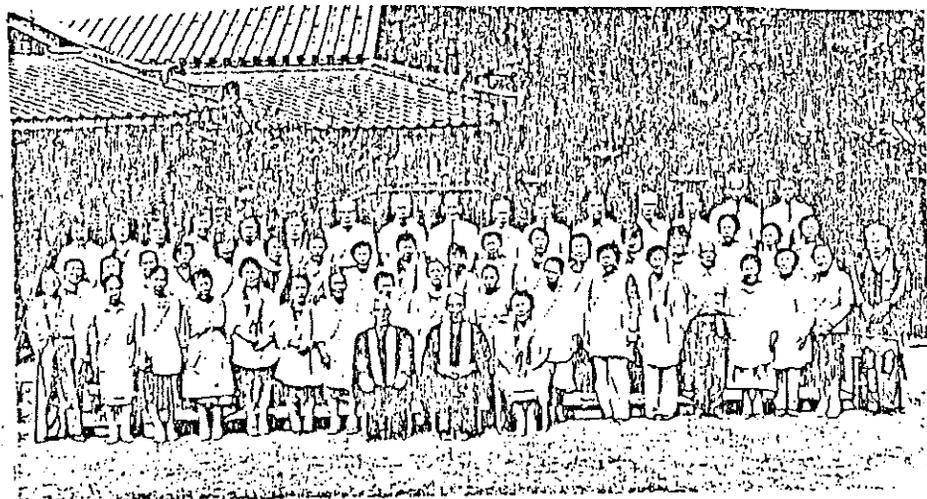
東光寺ご住職東井義雄先生が「大乘」六月号に掲載の文を転載させていただきます。

「大乘」は本願寺教団がご門徒向に出している月刊誌です。一年分三、六百円です。寺に申込んでください。

◇山田烏石氏は日展三回入選の当代高名な前衛画道芸術家です。但東町正法寺の出身のご門徒です。この度、勝林寺へその渾身の揮毫をお供えくださいました。書は「三掃」（「三宝に掃する」という仏法の語です。この語のことについては次号に解説したいと思つています。目下、表装をしてくださつています。お盆にはこの大幅を披露できると思っています。◇六月二十五日、後継住職は前ご門主様に対し仏教教理についての学術研究報告をいたしました。これは前門主様から選ばれて奨学金をいたゞいてゐるためです。◇住職は六月九日京都市立病院で永年の眼病の手術をいたしました。十七日に無事退院させていただきましたが今しばらく時時通院します。皆様にお迷惑を感心配をおかけ申しました。あつく御礼申します。◇六月九日、出石組念仏連盟の総会が勝林寺で開かれましたが、勝林寺念仏連盟会長宮嶋美重子さんの一勝林寺仏嬢のありかた」といふ報告は、とくに強い関心をよびました。

代議員の皆様へ御依頼

戸別「昭和五十八年度経常費割」を同封致しますので、お世話様ですが永代経までにご集金一括ご納入下さいませ。ようお願い申し上げます。



兵庫教区出石組念仏連盟第18回念仏奉仕団 558. 6. 9

七月三日午後一時より、仏嬢役員を中心にお寺の清掃奉仕を行います。会員の皆様でご参加できる方は、ふるつてご来援ください。有難く存じます。



わたしたち勝林寺の仏嬢活動は、近年とみに活発になつてきました。代々の役員のご努力はもちろんです。が、会員一人一人の意識の高まりがその原動力です。今年も、わたしたちの聞法計画と活動の方法とを相談いたしました。総会には漏れなくご参集ください。

開会（前九時半）
礼拝
「真宗宗歌」・新入会員献花
おつとめ（らいはいのうた）

会長あいさつ
会務会計報告
昭和五十八年度計画協議

ご法話
竜谷大学教授
信 菜 崎 廣 先生
昼食

◎新しくご門徒へ嫁いで来られた方をお母様かだれかご連れてお参り下さい。必ず平服で。当日会から記念品を贈ります。

- ① 評議員様へお願い
総会出席費を七月七日迄に報告して下さい。
- ② お嫁さんの氏名・年令・世帯主名・出席の有無を七月七日迄にご報告下さい。
- ③ 総会の会費は一人米二合と三百円です。
- ④ 当日九時半に必ず御参り下さいますようお願い下さい。

